

やさしい旅ヘルプ ④

新幹線が滑るようにプラットフォームホームに入ってきた。ホーム柵にやや遅れて車両扉が開くと、慣れた手つきで駅員がスロープ板を渡した。

見られるようになった。利用者が多い駅舎ではバリアフリー化の工事がほぼ終わり、お年寄りや障害を持つ人だけでなく、ベビーカーを使

鉄道の旅には交通エコロジ
ー・モビリティ財団が提供し
ているホームページ「らへり
くおでかけネット」が便利で、
全国のバリアフリー情報を調
べることができる。

改善進む鉄道バリアフリー

車内の多目的室まで笑顔で案内してくれる。車いす利用者に限らず、具合の悪い人や授乳、おむつ交換など、さまざまな用途で使えるスペースだ。すぐそばには、広くなつたバリアフリートイレもある。座席には車いす向けのスペースも確保されている。鉄道も設備改良でこうしたユニバーサルデザインへの配慮が待たれる。

この10年で鉄道サービスのバリアフリー化は大幅に改善され、特筆できるのは駅員ら

誰でも使える新幹線の多目的室



助けが大切だ。

車いす利用者の中には多くの鉄道ファンがいる。かつて「夢の超特急」と呼ばれた車両は代替わりの時を迎え、技術の進歩はさらに夢を膨らませる。見るもよし、撮るもよし、さらに聞くもよしというのが鉄道ファンだ。

国のバリアフリー新法は、高齢者や障害者が自立した生活を営むことができる社会を構築することが重要とし、鉄道もバリアフリー化の重点項目の一つだ。体が不自由になつても、大好きな鉄道旅行はいつまでも自由にできる社会でありたい。

（日本トラベルヘルプ協会 理事長・篠塚恭一）

設備だけでなく人も

の対応が向上した。たし、周囲にいる人の配慮や